ラリグラス・ジャパン News Letter

#09
2024
4月号

進級試験を控え、授業に取り組むテレサ・アカデミーの子どもたち

新緑が芽吹く季節となりました。皆さまにおかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

長年にわたり、春にネパール、夏にネパールとインドを訪問してきましたが、今年度よりスケジュールを少し変更して、春はネパールとインドを訪問し、夏にはネパールへのスタディツアーのみ実施することになりました。何卒よろしくお願いいたします。

今年は大きなイベントを実施することになりました。レスキュー・ファンデーション代表のトリベニ・アチャルヤさんと、人身売買被害に遭いながらも立派に社会復帰を遂げた女性 2 名を招聘し、6 月 2 日（日）、東京において講演会を催します。詳細は同封のチラシをご参照ください。

また、6 月 4 日（火）～ 5 日（水）は香川県まんのう町を訪問し、2011 年の招聘事業の際にたいへんお世話になった西念寺様に寄宿させていただいて、何らかのイベントを開催する予定です。こちらにつきましては、詳細が決まり次第、ホームページやメール等でお知らせいたします。

パートナー団体の方々の生の声を聴くまたとない機会です。ぜひともご参加いただき、皆さまのご支援がどれほど大きな支えとなっているかを感じていただければと願っております。

今回のニュースレターでは、招聘事業の告知を含め、マイティ・ネパール、NDWS、レスキュー・ファンデーションの活動についてご報告させていただきます。

認定特定非営利活動法人 ラリグラス・ジャパン
〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193
E-mail:info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

現地活動報告　マイティ・ネパール

使い方次第で危険を伴うSNS。リテラシーについてレクチャーを行った

現在、マイティ・ネパールは、インドとの国境沿いに 16 カ所のトランジット・ホームを運営している。インド警察によってインドから送り届けられたネパール人サバイバー（人身売買や強制売春などの過酷な状況を生き延びた人）の身柄をネパール警察とともに引き受け、健康診断やカウンセリングを行った後に、家族のもとへ帰す業務を担っている施設だ。

また、国境警察とともに 364 日行っている監視業務も、トランジット・ホームの重要な責務である。人身売買に加担するリクルーターに言いくるめられ、国境を越える寸前で足止めする仕事を担っているのである。

コロナ禍にあったころは、断続的に行われたロックダウンの影響などにより、国境を行き交う人自体が激減したため、マイティの監視にひっかかる件数は非常に少なかった。しかし、完全にかつての日常を取り戻した現在、以前と同等かそれ以上の女性が国境を越え、インドへ連れていかれようとしているのだ。

例えば、2023 年 12 月 17 日から 2024 年 1 月 14 日のたった 1 カ月間で、307 人もの少女や女性を保護する結果となった。これまで国境で保護される人数は年間 1000 人程度だったから、過去に類を見ない数の少女や女性が危険な目に遭っているといえる。

こうした状況に危機感を抱いたマイティは、大々的な啓発活動を行った。以前、ラリグラスは東ネパールのカカルビッタにあるトランジット・ホームと、そこから車で 20 分に位置するサッチガッタの旧ホスピスを支援していた。これらの地域への玄関口となるビラトナガルという街で、2024 年 1 月 3 日、10 代の少女を対象にオリエンテーションを行ったのである。参加者には、地域の若い女性や学生の他、国境で保護された少女や家庭内暴力のサバイバーなども含まれ、人身売買や性的搾取に関する法的問題に焦点を当てた講義を熱心に聞いていたとのことである。

続いて 1 月 19 日には、マイティ主導で人身売買防止プログラムを開催し、地域の行政担当者、国家人権委員会、警察の代表者を対象に、人身売買や児童の性的搾取に対処するための協調的な取り組みの緊急性についてレクチャーした。その結果、彼らから積極的な支援を取り付けることができたとのことである。

さらに、1 月 26 日に行ったプログラムでは、心理コンサルタントのギタンジャリ・シャルマ氏によるオリエンテーションを行った。昨今、SNS を介して言葉巧みに騙され、人身売買犯罪に巻き込まれるケースは増加傾向にある。そのため、ソーシャルメディアが子どもたちに与える影響やリスクについて解説してもらい、親の役割がいかに大切であるかを説いてもらったとのことだ。

テレサ・アカデミーは、学業だけでなくスポーツにも力を入れている。長い間、社会的に低い地位に置かれ続けてきた女の子たちに、スポーツを通して心身の強さを養ってもらうためだ。これまでバスケットボールなどで優秀な成績を収めてきたテレサ・アカデミー・チームだが、今年 1 月に行われた教育局主催の学校対抗テコンドー大会において 3 位に入賞し、学校中が歓喜にわいたとのことである。

ネパールでは、テコンドーが人気の武道。たくさんの子どもたちが道場に通う

さまざまなスポーツで好成績を収めてきたテレサ・アカデミーの女の子たち

レスキュー・ファンデーション（RF）

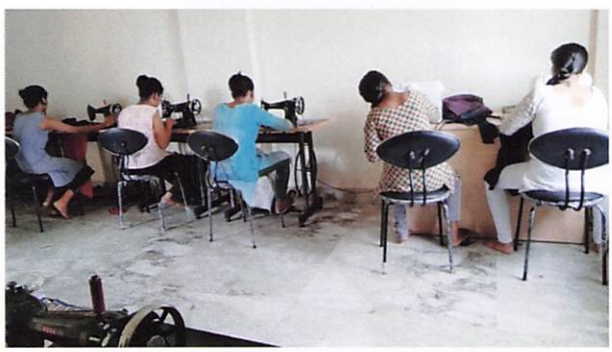
コロナ禍の危機的状況から生まれたプロジェクト「EKATRA（エカトラ）」は、今年で 3 年目を迎える。当初は手探りの状態でうまくいかないこともあったようだが、躓きと修正を繰り返し、やっと軌道に乗せることができた。

2023 年末の段階で 25 人のトレーナーが誕生し、多くのサバイバーがプロジェクトに参加した。例えば、学校に通う機会がなかった 842 人のサバイバーは、読み書きや簡単な計算といった基礎教育を受ける機会を得た。774 人がコンピュータートレーニングを受講。基本的な操作スキルに始まり、最終的には就職に有利に働くレベルに到達するよう実践的なトレーニングを行っているクラスだ。また、955 人が縫製技術、488 人が美容技術クラスを受講し、485 人が市場性のあるハンドメイドアイテムの製造技術を学んだ。心身の健康を維持するために設けられたヨガのクラスには 1267 人が、ズンバのクラスには 1560 人が参加した。

これらエカトラで行っているトレーニングは、大学進学や雇用機会の増加に確実につながっている。2023 年中、トレーニングを受けた 14 人のサバイバーがフルタイムの仕事を得ることができた。学齢期にある 88 人のサバイバーに対し、インドのカリキュラムに準じた教育を提供し、40 人のサバイバーが公的に通用する身分証明書の交付を受けることができた。

2023 年中、RF は警察と協力し、売春宿から 157 人の女性を救出し、184 人の売春宿経営者や斡旋人、売人を逮捕した。

これまで RF が売春宿から救出するサバイバーの国籍は、インドとネパールが主だったが、近年、それ以外の国籍の女性も保護されるようになったという。現在、RF が運営するシェルターには、バングラデシュ国籍の女性 23 名、ウズベキスタン国籍の女性 3 名、ウガンダ国籍の女性 3 名、タイ国籍の女性 3 名が入所しているそうだ。問題なのは、どの女性もまったくヒンディー語を理解できず、英語もほとんど話せないためケアが非常に難しい点である。ムンバイとアフリカ、アジア間はひっきりなしに航空機が行き来しており、今後も多国籍化が進む可能性が否めないとのことで、喫緊の課題として俎上に載せられている。



エカトラの縫製技術トレーニングの様子

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

研修に参加したクリシュナ君と家族

NDWS では、障がいのある人や保護者の生計向上のため、これまでもろうそく作りやクッション作りなどの研修を実施してきた。今年度は、ゴダワリ市第3地区と協力し、トイレや風呂掃除用の洗剤作りの研修を開催し、20 名が参加した。

当団体が長年支援してきているクリシュナ君は、車いすを使って生活している。日本の高校卒業相当まで学業を修めたものの、家からの移動が難しいことや、体が弱く長時間勤務が難しいことから、仕事に就くことができなかった。NDWS でも就職先を探したものの、クリシュナ君の家から通勤できる範囲では見つけることができなかった。ネパールでは、2017 年に制定された障がい者権利法において、仕事と雇用に関する差別を禁止しているものの、実際の障がい者雇用は進んでいない。

ネパールは国連の障がい者権利条約に 2009 年に批准した。批准国には国連から条約への対応状況の審査があり、勧告が出される。ネパール政府は対応に関する報告書を国連の障がい者権利委員会に提出し、2018 年に報告書の審査を終了した。また、複数の当事者団体や支援団体からパラレルレポートと呼ばれる現状調査の報告書も提出される。そのパラレルレポートおよび障がい者権利委員会からの勧告において、障がい者雇用についても十分でないことを指摘されており、行政も努力をしているところである。

トイレや風呂掃除用の洗剤は、比較的作り方が簡単で市場での人気も高いことから、ゴダワリ市第 3 地区から NDWS に協力の依頼があった。クリシュナ君は家族とともに 3 日間の訓練に参加し、修了証ももらった。第 3 地区から、開業資金 10 万ルピー（約 9 万円）の支援が行われる予定であり、クリシュナ君は家族とともに製造および販売にチャレンジすべく、準備中である。NDWS に通うデイケアセンターの子どもたちも大きくなり、就労支援が必要になってきている。NDWS は今後も行政と協力し、さまざまな職業訓練を提供していく予定である。

クラウドファンディングにご支援を！

New!

エカトラのクラスのひとつ、コンピュータートレーニング

2021 年 9 月にレスキュー・ファンデーション（RF）が新たにスタートさせたプロジェクト「EKATRA（エカトラ）」。ラリグラス・リポートやニュースレターにて随時ご報告してきたとおり、同プロジェクトは着実に成果をあげています。

そこでこの度、代表のトリベニ・アチャルヤさんと人身売買サバイバーの女性 2 名を日本に招き、**「インドの人身売買の現場から～現地 NGO 代表とサバイバーが語る実情、そして未来」とのタイトルで、講演会を開催**することにしました。

開催目的の 1 つは、南アジアの深刻な社会課題である人身売買問題を日本の方々に知っていただくことです。もう 1 つの目的は、サバイバーの女性たちをモティベートするところにあります。

今回お招きする女性たちは、RF によって売春宿から救出された後、リハビリプログラムを通して人生を立て直すことができました。1 人は、学校に通いながらエカトラの講師として活躍しています。もう 1 人は、エカトラのスーパーバイザーとしてがんばっています。

彼女たちが自らの体験を人前で語ることは、たいへんな勇気を要することだと思いますが、同時にさらなる自信を育む機会でもあります。また、彼女たちが海の向こうの遠くの国において、たくさんの聴衆の前でスピーチするという事実は、後輩たちに大きな希望を与えるに違いありません。

前回 2011 年 5 月に行った講演会には、トリベニさんと救出活動に力を注ぐ内偵員のサントシュ・セダイさんをお招きしました。目に見えてモティベートされたサントシュさんは、帰国後、それまで以上に救出活動に力を注いでくれたといいます。

今回の講演会もサバイバーの女性たちに好影響を与え、エカトラの活動がさらに活発化することを期待しています。

人身売買サバイバーの人生を後押ししたい。日本講演という体験を自信に繋げ、同じ境遇にある人たちの目標となってほしい。そんな願いを込めて、今回の講演会を開催する運びとなりました。

講演会に係る諸費用は、**クラウドファンディング「CAMPFIRE for Social Good」**を通じて、ご支援を呼びかけることにしました。

クラウドファンディングというと、「手数料がかり、せっかくの寄付も目減りしてしまうのでは?」と思われる方もいらっしゃることと思います。確かにクラウドファンディングの手数料の相場は、9 ～ 20%といわれており、たとえば目標金額の 100 万円が集まったとしても、手数料が 10%であれば 10 万円が差し引かれ、手元に入る金額は 90 万円となります。

しかし、昨年秋にスタートした、社会課題の解決をみんなで支え合う新しいクラウドファンディング「CAMPFIRE for Social Good」は、手数料無料、集まった金額の 100%を受け取ることができるのです!

目標額は 150 万円。用途は以下のとおりです。

- トリベニさん、サバイバーの女性 2 名、通訳者 1 名の渡航費
- 日本滞在費、交通費
- 講演会会場費
- チラシ製作費
- リターン品製作、購入費

リターン品はご寄付いただいた金額に応じて、以下を予定しています。

- 講演会へのご招待
- エカトラプロジェクトで、人身売買サバイバーの女性たちが製作した製品（グリーティングカード、ブレスレット、トートバッグ等）
- ラリグラス・ジャパン代表 長谷川まり子の最新刊
  『少女人身売買と性被害～インドに売られたネパール少女・被害実態と回復の試み』

1 人でも多くの方に、人身売買サバイバーたちの生の声を聴いていただければと切に願っています。何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

エカトラでサバイバーの女性たちが制作したトートバッグ

クラウドファンディング「CAMPFIRE for Social Good」へのご協力は、以下の URL へアクセスし、お手続きください。

https://camp-fire.jp/projects/view/742096

ニュースレターの一部表記の誤りについて

理事会において、クラウドファンディングの手数料について誤解があり、ニュースレターの一部表記に誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。

誤ったご案内×

クラウドファンディングというと、「手数料がかり、せっかくの寄付も目減りしてしまうのでは？」と思われる方もいらっしゃることと思います。確かにクラウドファンディングの手数料の相場は、9～20%といわれており、たとえば目標金額の 100 万円が集まったとしても、手数料が 10%であれば 10 万円が差し引かれ、手元に入る金額は 90 万円となります。

しかし、昨年秋にスタートした社会課題の解決をみんなで支え合う新しいクラウドファンディング『CAMPFIRE for Social Good』は、手数料無料、集まった金額の 100%を受け取ることができるのです！

▼

正しいご案内○

「手数料無料」との記述は誤りでした。

今回のクラウドファンディングでは、支援金全額をプロジェクトへの支援金とするため、クラウドファンディング運営団体への手数料を、支援者様に「ご協力費」として支援金に上乗せしてご負担いただくという仕組でした。

送金金額は、支援コースにかかる支援金に加え、「ご協力費」（支援金額の 12%＋消費税）と「システム利用料」（支援金額が 1 万円未満の場合：228 円＋消費税 22 円、支援金額が 1 万円以上の場合：支援金額の 2.27%＋消費税）が必要となります。